

## 比重と尿浸透圧

■検体：尿

■基準値

尿比重：1.008～1.030（比重）〈試験紙法〉

尿浸透圧：50～1300 mOsm/kg H<sub>2</sub>O 〈浸透圧計法（氷点降下法）〉

※水分摂取量により大きく変動するので、1回の測定のみで判断できない。

※血漿浸透圧と比較して判断する。

■高比重尿をきたすとき（1日尿で1.030以上）

糖尿病（尿グルコース高値）、熱性疾患、急性腎炎、下痢、嘔吐、マンニトール・グリセリン・造影剤排泄または混入

■低比重尿をきたすとき（1日尿で1.010以下）

●尿崩症、利尿剤投与、水分過剰摂取

●繰り返し1.010付近（290 mOsm/kg）に固定するもの（等張尿）：腎機能低下の末期状態

※蛋白尿、糖尿があるときは、蛋白量と糖量に応じた補正をした後の尿比重について判断する。

## pH

■検体：尿

■基準値

6.0（5.0～7.4）〈試験紙法〉

※やや酸性であるが、摂取食物によって変動する。

■酸性尿をきたすとき（pHの低値）

代謝性アシドーシス、呼吸性アシドーシス、酸性食品（肉類など）の摂取、塩化アンモニウムなどの摂取

## 血小板数

■検体：全血（EDTA 加）

### 基準値

15~35 × 10<sup>4</sup> / μL

■高値を示すとき

反応性の増加：出血，炎症，悪性腫瘍，鉄欠乏性貧血の初期

腫瘍性の増加：本態性血小板血症，慢性骨髄性白血病（CML），  
真性多血症

■低値を示すとき

血小板の産生低下：再生不良性貧血，急性白血病，巨赤芽球性貧血，癌の骨髄転移

血小板の破壊亢進：特発性血小板減少性紫斑病（ITP），DIC，血栓性血小板減少性紫斑病（TTP）

血小板の分布異常：脾機能亢進症，肝硬変症

体外への喪失：大量出血，人工心肺などの体外循環使用時

## 好酸球数

■検体：全血（EDTA 加）

### 基準値

150~300 / μL

■高値を示すとき（好酸球数500/μL 以上）

アレルギー疾患，寄生虫感染症，猩紅熱，天疱瘡，悪性リンパ腫，Addison 病，PIE（pulmonary infiltration of eosinophilia）  
症候群

■低値を示すとき（好酸球数50/μL 以下）

骨髄抑制（再生不良性貧血など），Cushing 症候群

## C-1 蛋白質および含窒素成分

### 総蛋白 (TP)

■ 検体：血清

■ 基準値

6.8~8.5 g/dL (ビュレット法)

■ 高値を示すとき

- 全蛋白分画の増加によるもの  
脱水, 電撃性感染症
- $\gamma$ -グロブリン分画の増加によるもの  
慢性炎症性疾患, 慢性肝疾患, 原虫症, 寄生虫症, 自己免疫性疾患, 悪性腫瘍 (特に多発性骨髄腫, 原発性マクログロブリン血症 (異常高値の場合, 蛋白分画にて M 蛋白を検索する))

■ 低値を示すとき

- 全蛋白分画の減少によるもの  
血液希釈, 飢餓, 栄養失調, 消化吸収不良症候群, 重症甲状腺機能亢進症, 重症糖尿病, 火傷, 蛋白漏失性胃腸症, 出血
- アルブミン分画の減少によるもの  
肝疾患, ネフローゼ症候群
- $\gamma$ -グロブリン分画の減少によるもの  
低または無グロブリン血症

### アルブミン (Alb)

■ 検体：血清

■ 基準値

3.5~5.5 g/dL (ネフェロメトリー法)

## CA19-9

■検体：血清

### 基準値

37 U/mL 以下

■高値を示すとき

膵癌，胆道癌，大腸直腸癌，胃癌，肝癌

■低値を示すとき

ルイス抗原陰性者では悪性腫瘍でも上昇しない（日本人の5～10%が該当）。

## CA15-3

■検体：血清

### 基準値

25 U/mL 以下

■高値を示すとき

乳癌，卵巣癌，肺癌

## シアリル Le<sup>x</sup> 抗原（CSLEX）

■検体：血清

### 基準値

8.0 ng/mL 以下

■高値を示すとき

乳癌

※診療および他の検査の結果から，乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定。

ては咽頭からの検体も算定可。

## 抗ストレプトリジン O (ASO) (定性・半定量・定量)

■検体：血清

■基準値

〈溶血阻止法 (Rantz-Randall 法)〉

小児：333 Todd U 以下

成人：166 Todd U 以下

〈受身細菌凝集法 (Blue-ASO)，免疫比濁法・ラテックス凝集法 (測定系により異なるので注意)〉

小児：600 U 以下

成人：300 U 以下

■高値を示すとき

ストレプトリジン O (SLO) 産生 (特に A 群) 溶連菌感染，扁桃腺摘出後 (一過性)，M-蛋白血症 (まれ)，高脂血症 (溶血阻止法で時に)

■低値を示すとき

SLO 非産生溶連菌感染，免疫不全状態，抗生剤治療

## 抗ストレプトキナーゼ (ASK) (定性・半定量)

■検体：血清

■基準値

1280倍以下 (受身血球凝集法 (キナーゼテスト))

■高値を示すとき

ストレプトキナーゼ産生溶連菌感染，ストレプトキナーゼ製剤治

約1 (ゲル内沈降法)

約100倍 (RPHA 法)

約1000倍 (RIA・EIA 法, CLIA 法, ECLIA 法, EV-FIA 法, TR-FIA 法)

#### ■陽性を示すとき

B型肝炎ウイルス (HBV) 感染者

### HBs 抗体 (定性・半定量)

■検体：血清

#### ■基準値

陰性 (赤血球凝集法, 粒子凝集法, EIA 法 (簡易法), 金コロイド凝集法)

■陽性を示すとき

HBV の既感染者, HB ワクチン接種により抗体を獲得した者, HBIG 注射後の者

### HBe 抗原

■検体：血清

#### ■基準値

陰性 (CLIA 法)

■陽性を示すとき

HBe 抗原陽性無症候性キャリア, B 型急性肝炎発症初期, B 型慢性肝炎, B 型肝炎硬変, 肝細胞癌

## 甲状腺刺激ホルモン（TSH）分泌能検査（甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン（TRH）負荷試験）

■**検体：血液**

■**基準値**

TRH 投与15分後に TSH 値が  $5 \mu\text{U}/\text{mL}$  以上か、前値の 2 倍以上

■**低反応を示すとき**

下垂体病変

■**無反応のとき**

Basedow 病，TSH 産生腫瘍

■**過大遅延反応を示すとき**

視床下部障害，原発性甲状腺機能低下

※TSH：thyroid stimulating hormone

※TRH：thyrotropin-releasing hormone

※通常の TSH 定量，サイロキシン定量で充分であり，ほとんど実施されていない。

※プロラクチン（PRL）分泌機能も評価できる。

## 副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）分泌能検査

■**デキサメサゾン負荷試験（少量負荷，多量負荷）**

■**検体：血液**

■**基準値**

デキサメサゾン負荷（内服）により，血漿コルチゾールが  $5 \mu\text{g}/\text{dL}$  以下に抑制

■**抑制がみられないとき**

下垂体性 Cushing 症候群，副腎性 Cushing 症候群，異所性 ACTH 産生腫瘍